

# ひょうご NIE 通信

## —2025 神戸大会へ—

発行 NIE 神戸大会事務局 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7  
☎078-362-7003 メール hyogo-nie@kobe-np.co.jp



## 「不透明な時代生きる力を NIE で」

実行委で竹内委員長 大会の参加者募集中

7月31日、8月1日に開催される「第30回 NIE 全国大会神戸大会」の第2回実行委員会が6月30日、神戸市内で開かれ、基調提案などの議案が承認された。大会の参加受け付けは7月8日まで。兵庫県内の幼小中高校や高等専門学校、特別支援学校の教職員、児童生徒、教育委員会の職員は無料で参加できる。

1日目は、神戸ポートピアホテル(神戸市中央区)で、芥川賞作家小川洋子さんの記念講演や、ジャーナリスト池上彰さんらによるパネル討議「情報で、いのちを守る」が行われる。2日目は、甲南大学岡本キャンパス(神戸市東灘区)で分科会があり、26の公開授業・実践発表や、特別分科会、ワークショップがある。

実行委員会では、竹内弘明委員長が「先行き不透明な時代を子どもたちがたくましく生き抜いていく力を育むために、NIEができることは何かを、皆さん

と共に議論していきたいと思う」とあいさつした。

承認された基調提案は、大会スローガン「時代を読み解き、いのちを守る NIE」に基づいて作成された。「情報で、いのちを守る」ためには何が必要か。メディアリテラシーの重要性や、NIE 活動を実践することの意義について触れている。

また、公開授業・実践発表の助言者・講師・司会・記録に関する議案が承認された。助言者は福本靖・神戸市教育長をはじめ教育関係者、講師は新聞・通信社関係者や大学関係者らが務める。

進捗状況では、6月30日現在、約千人の申し込みがあり、このうち教育関係者は600人程度であることや、初日に要約筆記があることなどが報告された。

初日の交流会は、ティーパーティー形式で行われる。新聞を使ったパフォーマンスを展開する「新聞女」こと西沢みゆきさんが、全国の2025年元日の新聞で作ったドレスを着て登場する予定との説明もあった。

参加費は兵庫県外の教育関係者は3千円、新聞・通信社関係者は1万3千円。申し込みは大会サイトから。  
<https://www.kobe-np.co.jp/info/nie2025/>

問い合わせは NIE 神戸大会事務局  
TEL078・362・7003

(NIE 神戸大会事務局 網 麻子)

出前授業で東日本大震災の取材体験を語る、上田勇紀記者=6月26日、姫路市立豊富小中学校



### 記者も取材体験など語る 公開授業や実践発表

「NIE 全国大会神戸大会」2日目の分科会では、発表者の教員とともに新聞記者が登場する公開授業や実践発表がある。姫路市立豊富小中学校(前期課程)の公開授業「新聞で開くメディアリテラシー～全国の子ども新聞から迫る、情報の向こう側～」はそのひとつだ。

発表するのは前野翔大教諭(38)。発生から14年になった東日本大震災について取り扱った、全国各地の「子ども新聞」の記事を読み比べる取り組みを横軸に、発生時からたびたび東北沿岸部に通う神戸新聞報道部の上田勇紀記者(42)の取材体験を聞く活動を縦軸に、新聞で報道される「情報の向こう側」にある新聞各紙の意図や記者の思いを考える。

愛徳学園中・高校(神戸市垂水区)の実践発表「ICTで拓く NIE の新たな地平～情報の信頼性を確保するために～」にも神戸新聞記者が出演し、新聞制作アプリ「ことまど」を使った実践事例などを紹介する。

(兵庫県 NIE 推進協議会事務局長

三好正文)

世界を舞台に活躍する「新聞女」と西沢みゆきさん



神戸新聞 2025年06月27日 金曜日 面名 教育1 13 15ページ

### なおみ先生の NIE 教室



思想家の内田樹氏は、マイナーなメディアと大手メディアとの違いをブログで述べています。マイナーなメディアは「対話と合意形成の場」を提供することができない代わりに、「同じ意見の人間だけが集まって盛り上がる」と許される。一方、大手メディアは「広く異論に開かれていること」によってはじめてある程度以上のサイズであることを達成している。

その対話と合意形成の場を、洲本高校(洲本市)の大石昇平先生は文化祭で可視化しま

⑪

### 新聞は合意形成の場

した。地域の老人会川西みどり会11人と生徒20人が5班に分かれ、少子化やコメ問題について、新聞記事をもとに話し合いました。

団塊の世代と、デジタルネイティブ世代。「私、結婚したくありません」「へえ」「でも、うちの孫も結婚してないし」「うちもコメは買ったことない」「ほお」「昔は田んぼを継ぐのは当たり前。コメはもうからない」。新聞部副部長の2年辻文生さんの感想は「世代が違くと、経験してきたことが全く違っていた。けれど、話してみると、感じていることや、深い部分の価値観は同じだなと思った。SNS(交流サイト)は偏った意見が多く、

怖いと感じていたが、新聞記事はいろんな人との対話のきっかけになると思った」

新聞には多様な分野の記事に対する賛否両論が載っています。コミュニケーションや合意形成の練習に、世代、国籍などが違う人と新聞を囲んで対話するのはいかがですか。

(NIE・NIB推進部顧問 吉田尚美)

◆NIEは学校で新聞を教材として活用する活動です。この連載は第4金曜に掲載。

よしだ・なおみ 兵庫県稲美町出身。県内の公立高校国語教諭、県教育委員会指導主事、三木北高校長、播磨南高校長などを経て現職。

## 世代を超えた対話のきっかけに

2025年6月27日付神戸新聞朝刊教育面に掲載されました